

色の使い方によって、学校生活で不便を感じている子どもがいます
色の見え方が他人と異なる子どもへの配慮が必要です

みんなが見やすい 色環境

学校に
おける

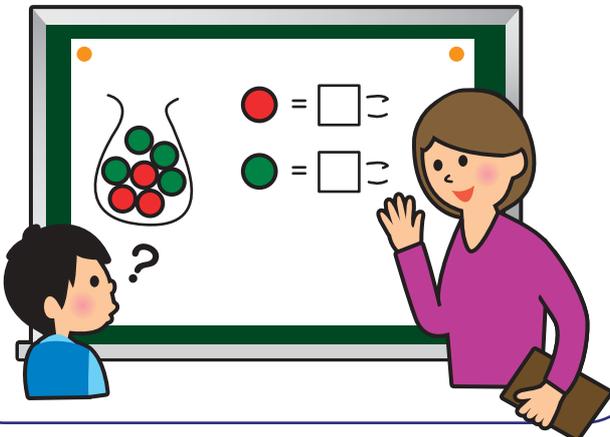


色のバリアフリーとはなんだろう？

色の見え方が他人と異なる子どもはクラスに一人ぐらいいます
色は見えていますが、色の組み合わせ、環境や条件によって似通って見えてしまうことがあります

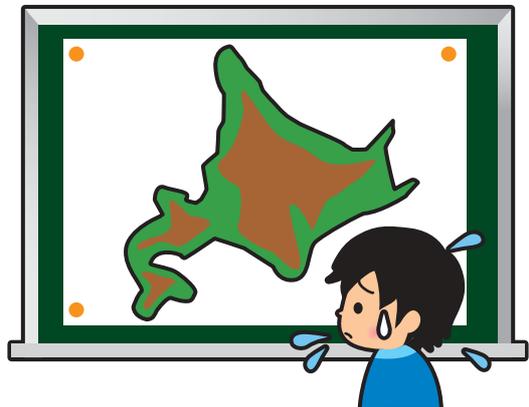
質問 ①

この算数の授業は色のバリアフリーになっていません。どうすればいいのでしょうか。



質問 ②

地図についての授業です。「平野は緑、山は茶色」という説明だけでいいのでしょうか。



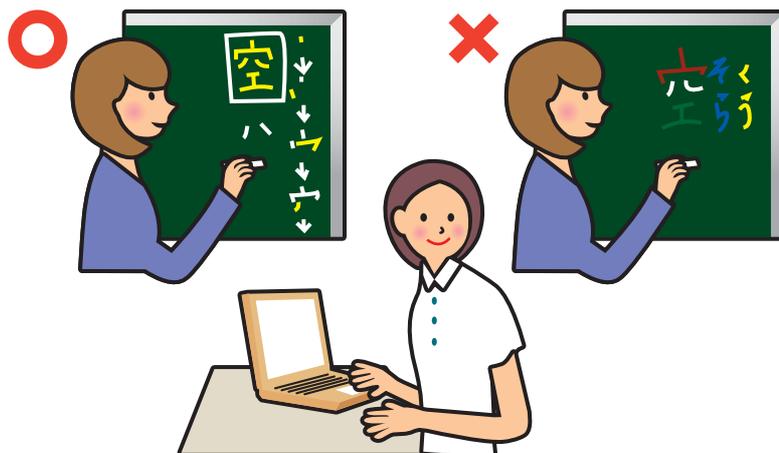
※答えは裏面に

いまからできる色のバリアフリー

チョークの色は「白と黄色」を基本にしましょう。大きく、はっきりと書くことも大切です。

掲示物・プレゼンテーションでは色の数を少なくし、色の多用に注意しましょう。

色刷りの資料は白黒コピーで判別できるものが良いでしょう。



質問 ① の答え

赤と緑「●と●」では戸惑うことがあります。「●と▲」や「●と●」のように形や大きさを変えるなど色以外の情報を加えることが大切です。

質問 ② の答え

「緑」と「茶」など、色名だけでは戸惑うことがあります。位置・形を補足し、指示棒を使って説明するなど、色以外の情報を加えることが大切です。

■ 色環境への配慮と指導

社会で決められている色使いや、自然界の色を変えることはできませんが、状況に応じた配慮と指導で、バリアを低くすることができます。

配慮が必要な色の組み合わせには、「赤と緑」「茶と緑」のほか、「橙と黄緑」「青と紫」「緑と灰色・黒」「ピンクと白・灰色」「赤と黒」「ピンクと水色」があります。



ピブス、たすき、鉢巻は見分けにくい色の組み合わせを避けましょう。

右手を高く上げ、「こちらはピンクになりました」といえば、理解しやすくなります。

自然観察や写生の際に、色使いが異なった子どもがいても叱らないようにしましょう。

詳しくはホームページを。

<http://www.hokenkai.or.jp> 財団法人 日本学校保健会
新サイト「学校保健」 <http://www.gakkohoken.jp> でも掲載しています